



MONDAY, JUNE 22, 2020 VOL. 5

三思会、社会人向けの教育産業市場に係る提言

学術支援団体・三思会は、社会人向けの教育産業市場に係る提言を取りまとめた。同会はアカデミズムに関わる国家機関の諸活動を支援している民間の組織。哲学等の人文学分野、リベラルアーツ等の学際領域、非実学的なメタレベルの「知」に特化し、その発展および保全に寄与している。尚、提言の概要は以下の通り。

現在、社会人向けの教育産業市場は、実学的なコンテンツで溢れ返っている。この流れは、誇大広告等の売り方にも反映され、購入後に齟齬が生じている事案も数多く見受けられる。加えて、自分が学ぶべきものを選ぶ(購入する)側の洞察力や思考力の低下も顕著であり、業界全体の民度を高めることが喫緊の課題となっている。こうした問題を解決するためには、抽象思考力の向上や「知の全体図」の把握等に繋がるような非実学領域の学びが必要であり、係る諸研究の内容や国家機関等の活動を広く知らしめるべきである。

また、三思会では幹部会員が中心となり、独自の改善策も提案している。具体的には、学問における「哲学」の再定義(我が国独自の分類化)、国立大学法人の一般教養に係る授業のオンライン公開、社会人に対する義務教育制度の導入、等。尚、同会は本提言を会報「三思評論」として書簡化、支援先の諸団体に報告する方針。

公開シンポジウム「人文学の国際化と日本語」

日本学術会議は来たる7月19日、公開シンポジウム「人文学の国際化と日本語」を開催する。概要は以下の通り。我が国学術情報の国際化と国際的学术交流の重要性は、人文学分野においては今世紀初頭より注目されてきた。しかしながら、情報発信や海外情報の受容について、いまだ十分とは言えない水準にある。特に日本及び日本語と関わる分野においては、海外における「日本理解」には不十分の感が拭えないし、海外日本研究の実態について、日本国内の研究者が必ずしも十全の理解に達していない感がある。また我が国からの情報発信も、海外研究者からは不十分と言われることが少なくない。

この最大の原因の一つは、我が国の研究者に外国語(特に英語)運用能力が決定的に欠けている点に求められてきた。しかしながらこの問題の本質は、言語をある種の道具としてのみ捉える発想そのものにある。むしろ人文学の国際化の難しさの背景には、学会や分野の枠を超えた、広汎で深い相互交流の欠如という問題が横たわっているように思われる。このような認識に基づき、特に人文学を中心とする我が国学術分野の課題と、国際学术交流における日本語の役割について、本会議会員・連携会員に海外有識者を交え、共に考察する機会とする。

シンポジウム当日のテーマは、言語学分野では教育と可視性、日本語学と国際化、国立国語研究所の取り組み、人文学の国際化と中国語。文学分野では昆虫文学、国文学者が英語で論文を書く日、日英モダニズムの果実(福

沢、野口、西脇)、Concerning the Methods of Transcultural Academic Writing、等。

主催は言語・文学委員会「人文学の国際化と日本語」分科会、共催は大学共同利用機関法人・人間文化研究機構、国立国語研究所、国文学研究資料館。ZOOMによるインターネット会議方式(使用言語:日本語)で行われる。

東京大学、異才発掘プロジェクト「ROCKET」

東京大学は、異才発掘プロジェクト「ROCKET」への支援を募っている。同プロジェクトは、「Room Of Children with Kokorozashi and Extra-ordinary Talents」の頭文字を取ったもの。志ある特異(ユニーク)な才能を有する子ども達が集まる部屋(空間)の創出を目指している。

担当研究室によれば、現在、既存の枠を超えた教育の重要性が明確になってきており、同時にその社会への実装をどう行うかを検討している。また、参加するユニークな知性を持つ子どもたちの認知特性を明らかにし、彼らに合った学びを提案する試みも行っている。同じように教育の機会が十分提供されていない、読み書きに困難を持つ子どもたちや重度重複障害を持ち意思の汲み取りが難しい子どもに対しても、ICTによるエンハンスメントに関する実践的研究を行っていく。さらに、2019年度からは貧困状態にある子どもたちに対する教育研究も開始している。多様性を認め合いユニークな人材を受け入れる社会的素地の創生こそが、イノベーションを生む未来の社会システムに結びつくとしている。

サマープログラムは、受験勉強だけでは物足りずに学びの本質を探求する優秀な中高生向けに開催。AIやロボット時代に未知の世界へ飛び出していける智慧と一歩踏み出す勇気を学ぶ機会に、目的的な受験勉強ではない答えのない学びに没頭する時間を中高生に提供する。また、オープンプログラムでは、様々な分野を専門的に学びながら、同時に広い視野で客観的にものごとを見、専門的、俯瞰的な知識を繋げるプログラムを実施する。自分の興味や関心に基づき、子どもが自ら学ぶ意思をもって学び、同じ興味や関心を持つ仲間と出会う機会を提供する。

京都大学、交響楽団100周年記念事業

京都大学は、交響楽団100周年記念事業への支援を募っている。同団は1916(大正5)年に創立され、その翌年より戦時中も毎年欠かさことなく演奏会を開催してきた。チャイコフスキー交響曲第6番「悲愴」の本邦初演、ベートーヴェン交響曲第9番(合唱つき)関西初演など楽壇に貢献し、著名な指揮者を客演として迎えながら、着実に発展を遂げてきた。

一方、2016年に100周年を迎えたことで、歴史と伝統を後世へと引き継ぐため、定期演奏会に加えて、100周年記念事業の実施を決定。同団では創立以来、決して妥協しない純粋な音楽づくりに取り組んでおり、運営から演奏まですべてを学生が行う中で、さまざまな難しさに日々直面しながら、仲間同士で力を合わせ、長大な交響作品を創り上げてきた。その積み重ねの中で、独自の文化が醸成され、それは今現在まで脈々と受け継がれている。同団は、長年にわたり育んできた思想や哲学を明らかにして、多くの人々に還元したいとしている。

AAC&UとAAUP、一般教養教育の価値を擁護

米国カレッジ・大学協会(Association of American Colleges&Universities: AAC&U)と、米国大学教授協会(American Association of University Professors: AAUP)は、一般教養教育の価値を擁護する共同声明を発表している。米国では、一般教養の一部である人文科学専攻学生は、大学卒業後に優良キャリアに就くことができないとの

考えが強く、また、一般教養専攻課程を縮小・廃止する大学も増加しており、このような傾向を受けて発表されたものである。

同声明は、高等教育機関に対して、単なる職業訓練だけではなく、学生の生涯学習能力の強化を図るべきだと提言している。また、声明の中では特定の大学の名前が出されることはなかったが、就職につながるプログラムを重視するために、英語・歴史学・政治科学・社会学などを含む一般教養13課程の廃止計画を発表した、ウィスコンシン大学スティーブンスポイント校 (University of Wisconsin—Stevens Point) の例は非常に有名である。

米国、人文科学分野の学士号取得者数が減少

米国芸術科学アカデミー (American Academy of Arts & Sciences: AAAS) は、学士課程において人文科学分野を専攻する学生に関する調査を実施し、その分析結果を発表している。

これによると、英語・英文学、歴史学、外国語学・文学、言語学、古典研究、哲学などといった中核的人文科学分野の学士号取得者数は、例えば2012年～2014年の間で8.7%減少している。また、全ての学士号取得者の中で、同分野が占める割合は6.1%で、1948年以降最低であることも判明している。これまでに最も低かったのは1990年代前半の8%で、最高は1967年の17.2%であった。さらには、ジェンダー研究、芸術学、宗教学などを含めた広義の人文科学分野が占める割合は同9.9%である。

また、専攻学生数の低下率については、考古学と古典研究が19%と低下率が最も大きく、最も専攻学生数の多い英語学及び歴史学ではそれぞれ8%と12%であった。一方、言語学、比較文学、民俗学などといった分野では、専攻学生数が増加した。この他、準学士号取得課程では、人文科学分野での学位取得者数が増加している。

スウェーデン、校内授業再開と留学生への影響

スウェーデン政府は、2020年5月末日、3月中旬より新型コロナウイルス感染拡大防止のため遠隔教育を行っていた高等学校、大学及び成人教育機関の校内での授業を6月中旬から再開可能にすると発表した。間もなく夏休み期間となるため、実質的には今秋より再開される見込みである。校内での授業再開にあたって、政府は教育機関が新型コロナウイルス対策のルールやガイドラインに沿った適切な方法で授業を実施できない場合には、遠隔授業での実施を強く推奨している。他方、スウェーデン移民庁は、高等教育機関が秋学期の授業のほとんどまたはすべてを遠隔で行う場合、現行の法令を適用すると、留学生へ滞在許可を延長することはできないとの声明を出している。

また、EU域外からの入国禁止措置も続いているため、新たに入国しようとするEU域外の留学生は滞在許可を取得できたとしても原則として入国できない状況にある。尚、現時点で初回滞在許可を申請した今年の国外の留学生数は1,800人(昨年度同時期4,700人)である。

【主要支援先】

独立行政法人日本学術振興会 東京藝術大学130周年記念プロジェクト
公益財団法人日本学術協力財団 東京大学新図書館 (AC) 計画
公益財団法人菊葉文化協会 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ

三思会

three-thought.com

